

解 答

1 (B)	2 (B)	3 (D)	4 (B)	5 (D)	6 (A)
7 (C)	8 (B)	9 (A)	10 (B)	11 (A)	12 (C)
13 (B)	14 (D)	15 (B)	16 (D)	17 (B)	18 (A)
19 (D)	20 (A)				

1. A 「マイケル、私は街に買い物に行きたくないわ」

B 「僕も行きたくない」

- ▶ Me neither. とすれば、前出の否定文を受けて「私もまた～でない」という表現になる。

■ 慣用的な倒置——neither[nor]+(助)動詞+主語

先に述べられた否定文に同意を示し、「〈主語〉も(また)そうでない」と言うときは、〈neither[nor]+(助)動詞+主語〉の語順となる。

[例] “I don’t feel like eating any more.” “Neither[Nor] do I.”

(「もうこれ以上食べたくありません。」「僕もだよ。」)

- ▶ (C)too は(1)のように肯定文で、(A)either は(2)のように否定文で用いられ、「…もまた～」という意味を表す。

(1) “I’m from Arizona.” “Really? I am, too.”

「私はアリゾナの出身です。」「本当？ 私もそうですよ。」

(2) “I can’t eat raw fish.” “I can’t, either.”

「私は生の魚を食べられません。」「私もダメですよ。」

▶ 口語では、(1)は **Me, too.** (2)は **Me, neither.** [本問] と答えることが多い。

2. 「注文する予定の新車の色について気持ちが変わったよ。緑じゃなくて赤でいいってみようと決心した」

- ▶ 空欄には instead を入れて instead of ~「～の代わりに」とすれば、「緑としていたところをやめて赤にしたい」と言っていることになり自然な発言になる。

- ▶ (A)otherwise「もしさうでなければ」, (C)except「～を除いて」, (D)besides「圖その上/圖～の他に」。go for ~「(選んで)～にする(choose)」

□ instead of ~「～の代わりに/～しないで(doing)」 (= in place of ~)

Instead of going to the party, Mike studied at home.

(マイクはパーティーに行かないで家で勉強をした。)

3. 「とてもひどい交通渋滞だったので、海岸まで車で行くのに 1 時間以上かかった」

- ▶ 空欄に名詞句 a bad traffic jam と that が接続していることから, such + 名詞 + that S V「非常に～なので S が V する」の構文を用いればよいことが判断できる。

□ such ... (that) ~「とても…なので～/～するほど…」

▶ so ... (that)~と同じ意味である。ただし, so の後には形容詞または副詞が、such の後には名詞がくることに注意。

so ... that ~と such ... that ~の使い分け

(1) so + 形容詞 [副詞] + that ~

(2) so + 形容詞 + a + 名詞 + that ~ [名詞を伴う場合]

(3) such (+ a) (+ 形容詞) + 名詞 + that ~

He is $\left\{ \begin{array}{l} \text{so kind} \\ \text{so kind a boy} \\ \text{such a kind boy} \end{array} \right\}$ that everybody likes him.

(彼はとても親切な(少年なのでみんなに好かれている。)

4. 「聴衆の前で話さなければならない時、私はいつも緊張する」

- ▶ find を用いた SVOC の構文であることに注意。空欄に入るのは直前にある形式目的語 it, つまり「聴衆の前で話さなければならないこと」を修飾する形容詞である。形容詞として用いられるのは(B)か(C)だが、(C)は後置修飾の場合「いらいらして」

という意味で人を修飾し、無生物は修飾できない。よって、(B)が正しい。

- ▶ (B)stressful「**圖**緊張を要する」, (C) stressed「**圖**[叙述]ストレスで疲れた/いらいらした」, (D)stress「**圖**緊張, ストレス/**圖**～を強調する」。

5. 「携帯電話の発明によって、公衆電話はほとんど姿を消してしまった」

- ▶ 〈原因・理由〉を表す前置詞としては(B)forか(D)withが考えられる。forには「(利益の)ために」という意味もあり、ここで用いると意味があいまいになる。一方、withの表す〈原因・理由〉は「(すでに存在している状況が)原因で」という意味で、携帯電話の普及という現状と公衆電話の減少の因果関係がより明確になる。

原因・理由を表す前置詞 at, from, for, of, with	
(1) at	We were surprised at his bad manners.[感情の原因] (私たちは彼の無作法さに驚いた。)
(2) from	He is suffering from a stomachache.[原因・根拠] (彼は腹痛に苦しんでいる。)
(3) for	Joe was fined for speeding.[原因・理由] (ジョーはスピード違反で罰金をとられた。)
(4) of	Mr. Jones died of cancer.[原因・理由] (ジョーンズ氏はガンで亡くなった。)
(5) with	She is busy with her homework.[原因] (彼女は宿題で忙しい。)

6. 「弟のビクターは 6 歳の時から英語を勉強している」

- ▶ **since he was six years old** とあることから、〈継続〉の意味の現在完了進行形を用いるのが文法的に正しい。

7. 「ポールがもっと一生懸命勉強していたら、彼は講習に合格していただろう」

- ▶ If Paul **had studied** harder から、**仮定法過去完了**の文であることが判断できる。後半の「～だっただろう」の述語動詞の部分の形が仮定法として正しいのは(C)を入れた場合である。

8. 「私は一度に 2 つ以上のこと集中することができない」

- ▶ at a time で「一度に、続けざまに」という意味の慣用表現になる。

〔例〕 He went up the stairs two **at a time**.

(彼は階段を一度に 2 段ずつ上った。)

□ **more than** ~ 「(数詞の前で)~より多い」

The book weighs **more than** **two** kilos.

(その本は 2 キロより重い。)

9. 「父は健康に問題を抱えている。だから私は、父はこれ以上一生懸命に働くべきではないと思う」

- ▶ anymore「これ以上」という副詞が用いられていることを手がかりに考えると、この文は、父の現在の動作・状態に対して懸念を表明していると判断できる。現在進行形が「今この時」に限らず、ある限られた期間にわたって、くり返している動作や、し続けている動作を表すことがあり、(A)を入れれば正しい文になる。

〔例〕 These days, I **am eating** a lot of vegetables.

(このごろ私は、野菜をたくさん食べています。)

10. 「昨日デイヴィッド始めた新しい仕事はやりがいのある仕事だ」

- ▶ The new job ... yesterday までが主語であるから、空所には The new job を先行詞とする関係代名詞の which を入れることで全体が名詞句になる。

11. 「地元企業のグループが、小児科病院建設の援助をするために 5 万ドルを調達した」

- ▶ (A)raise「**圖**(価格・料金・税金/物・身体の一部など)を上げる」には「(お金を)調達する」という意味がある点に注意。

〔例〕 raise (the) money for flood victims (水害被災者のために寄付金を募る)

- ▶ (B)announce「～を公表する」, (C)reward「～に報いる」, (D)support「～を支える」。

活用・意味がまぎらわしい動詞——riseとraise				
	原形	過去形	過去分詞	現在分詞
(自動詞) rise「上がる/昇る」	rise	rose	risen	rising
(他動詞) raise「～を上げる」	raise	raised	raised	raising

12. 「わが社はあなたの提案を受け入れるべきかどうか決定していませんが、さらに検討をして明日お伝えします」

- ▶ give A some[a lot of] thought で「Aについて少し[よく]考える」という表現である。thought「思考, 熟考」

[例] I'll give this some thought.

(このことについて少し考えてみます。)

- ▶ (A)idea「考え, 見解」, (B)solution「解決策」, (D)decision「決定」。

13. 「生徒は授業第一日目までに教科書を購入するように義務づけられている」

- ▶ 空欄の直前が be 動詞 are で、選択肢は全て動詞の過去(形)分詞であるので、受動態の文であると推測できる。「授業初日までに教科書を購入すること」という内容に最もふさわしい動詞は、(B)required「要求されている」である。(A)の need は、need to do という形で「～する必要がある」という表現になる。

- be required to do 「～するように義務づけられている」

You are required to turn in that report by Wednesday.

(あなたは水曜日までにそのレポートを提出しなければならない。)

14. 「最後まで先延ばしにしておくよりも、すぐに宿題をやった方がいいよ」

- ▶ A rather than B で「BよりもむしろA」という表現になり,AとBには文法上同等のものが入る。rather than 以下よりも「すぐに宿題をする」ほうが良いのであるから、「～を延期する」という意味になる(D)off を選ぶ。

- A rather than B 「BよりもむしろA」

I decided to take a walk rather than (to) go straight home.

(私は家へまっすぐ帰るより、いっそ散歩しようと決めた。)

- put off A 「Aを延期する」 (= postpone A)

You should not put off answering the letter.

(あなたはその手紙の返事を書くのを延ばすべきではない。)

15. 「提出する前にレポートを読んでいただけますか？」

- ▶ (A)hand off ~「【アメフト用語】(ボール)を〔近くの味方に〕手渡す〔to〕」, (B)hand in ~「～を〔…に〕提出する〔to〕」, (C)hand down ~「(人)を〔乗物から〕手を貸して降ろす〔from〕」。文意より(B)がふさわしい。

- hand in ~ 「～を提出する」 (=submit/give in ~/turn in ~)

▶ hand in ~/give in ~《英》は「(手渡しで)提出する」場合。「(郵送して)提出する」なら send in ~を用いる。turn in ~《英》はどちらの場合にも用いる。

Hand in your composition by today next week.

(作文を来週の今日までに提出しなさい。)

You must turn in your old license in order to get a new one.

(新しい免許を手に入れるためには、古い免許を提出しなければならない。)

16. 「ジェニー、フランスに行くとき、ホテルは私と相部屋でいい？」

- ▶ 空欄の直後が sharing と動名詞になっていることから, Would you mind doing? 「～してくれませんか」という意味の依頼表現が最適である。

- Would[Do] you mind doing? 「～していただけませんか」『依頼』

Would you mind keeping an eye on my luggage while I make a phone call?

(電話をかけている間、私の手荷物を見張っていてくれませんか。)

cf. Do[Would] you mind my[me] doing? 「～してもいいですか」『許可』

Would you mind my[me] leaving my seat for a moment?

(少しの間席を外してもいいですか。)

Of course not. (もちろんいいですよ)

17. 「毎朝、母は電車に乗り遅れないかと心配している」

- ▶ be late for ~で「～に遅れる」という表現になる。

[例] I was twenty minutes late for school because I missed the bus by seconds.

(数秒のところでバスに乗り遅れたので学校に 20 分遅刻した。)

18. 「スミス教授は、私たちに、学生は皆、授業で発表しなければならないと告げた」

- ▶ give[make] a presentation で「発表をする」という慣用表現になる。(B)hold「(会・式など)を催す、開催する」。

[例] give[make] a presentation at the conference (会議でプレゼンを行う)

19. 「昨年マラソンを完走できなかったことに落胆して、トムは今年こそは完走すると固く決意している」

- ▶ 主語が Tom という「人」であるので、原形動詞が SVO to do という語法を持ち、人を目的語にとることのできる動詞を選ぶ必要がある。

(A)convince A to do「A(人)を説得して～させる」, (B)promise A to do「A(人)に～すると約束する」, (D)determine A to do「A(人)に～することを決心させる」。

昨年は完走できなくて落胆したマラソンを、今年は完走すると「決意」するのが自然であるので, (D)determined が正解。(C)commit「(罪などを)犯す」。

- be determined to do 「(人が)～することを堅く決心[決意]している」

They were determined to maintain peace.

(彼らは平和を守ろうと堅く決心していた。)

20. 「ジョンソン先生はとても人気がある。彼女の生徒は皆、彼女を敬愛している」

- ▶ (A)regard「敬意、評価」, (B)record「記録」, (C)impression「印象」, (D)judgment「判断、裁判」。ジョンソン先生は「とても人気がある」のだから、生徒たちはジョンソン先生に対して, (A)regard「敬意」を抱いていると考えるのが適当である。

- have a high regard for ~「～を高く評価している」

have high regard for one's parents (両親を大いに尊敬する)

Everyone has high regard for the boss.

(みんながその上司を尊敬している。)